

トビウオ通信 (R8 第6号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《令和7年漁期の底びき網漁業の動向》

底びき網漁業の令和7年漁期（令和7年8月～令和8年5月）の動向を取りまとめました。島根県の基幹漁業の一つである本漁業は、カレイ類やアカムツなど海底付近に生息する様々な魚介類を漁獲対象とします。1隻の小型漁船で操業する「小型機船底びき網漁業（かけまわし）」と2隻の大型漁船で一つの網を曳く「沖合底びき網漁業（2そうびき）」の動向について紹介します。

小型機船底びき網漁業（かけまわし）

1隻当り漁獲量は平年を下回り、水揚金額は平年並み

島根県の小型機船底びき網漁業（かけまわし）31隻の令和7年漁期（令和7年9月1日～令和8年5月31日）の総漁獲量は2,194トン、総水揚金額は12億7,339万円でした。また、1隻当りの漁獲量（以下、CPUE）は71トンで平年を17%下回り、水揚金額は4,137万円と平年並みとなりました（過去10年平均：86トン、4,142万円）（図1）。

ムシガレイは平年並み、ソウハチは平年を下回る

ムシガレイ（地方名：ミズガレイ）のCPUEは2.6トン（平年比104%）で平年並みでしたが、ソウハチ（地方名：エテガレイ）のCPUEは10.6トン（平年比73%）、ヒレグロのCPUEは1.1トン（平年比20%）、アカガレイのCPUEは2.3トン（平年比39%）でそれぞれ平年を下回りました。令和3年～令和7年（以下、過去5年間）のCPUEの動向は、ムシガレイは「横ばい」、その他は「減少」傾向にあります（図2①）。

ケンサキイカは低水準が続く、ヤリイカは平年を上回る

ケンサキイカ（地方名：シロイカなど）のCPUEは0.7トン（平年比54%）で、不漁であった前年（令和6年漁期、CPUE：0.1トン）を上回りましたが、依然として低調な漁獲が続いています。一方、ヤリイカのCPUEは7.4トン（平年比237%）で平年を上回り、4漁期連続して増加傾向が続いています。スルメイカのCPUEは1.1トン（平年比48%）で、平年を下回りました（図2②）。

ニギスは平年を上回る、アカムツは平年並み

ニギス（地方名：トンコロ、オキギスなど）のCPUEは9.1トン（平年比133%）で平年を上回りました。アナゴ・ハモ類のCPUEは5.8トン（平年比104%）、アカムツ（地方名：ノドグロ）のCPUEは3.8トン（平年比95%）でそれぞれ平年並みでしたが、キダイ（地方名：レンコ）のCPUEは3.4トン（平年比79%）で平年を下回りました。過去5年間のCPUEの動向は、ニギスは「増加」、アカムツは「横ばい」、アナゴ・ハモ類およびキダイは「減少」の傾向にあります（図2③）。

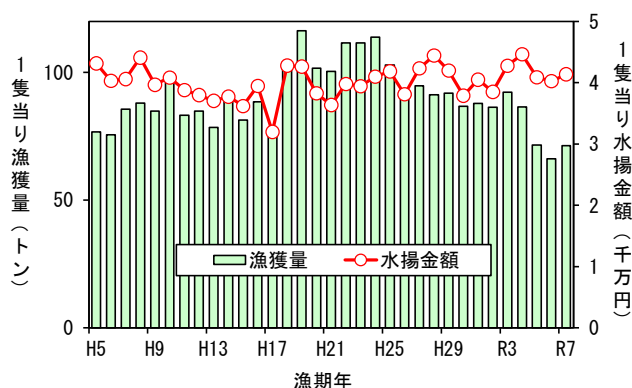


図1 小型機船底びき網漁業における1隻当り漁獲量と水揚金額の経年変化

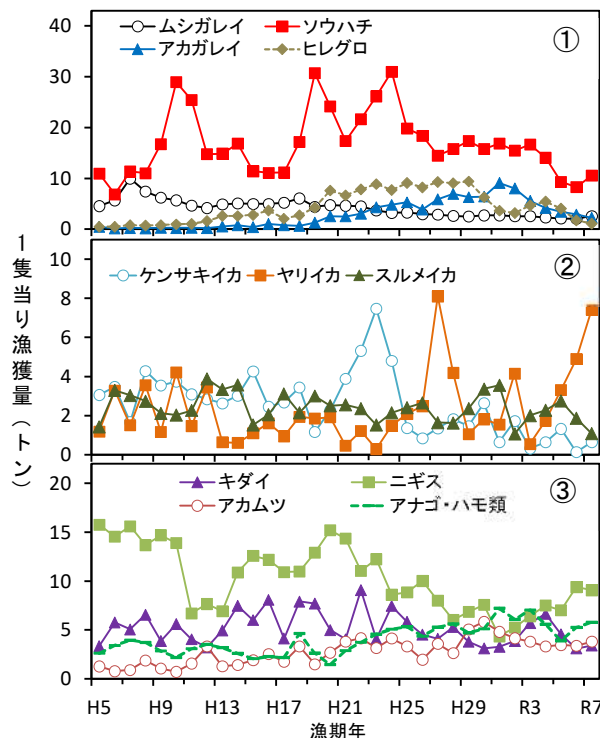


図2 小型機船底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向

＜文中の語句説明＞

- ☞ 平年は、過去10年〔平成27年漁期～令和6年漁期〕の平均です。
- ☞ 前年・平年との比較は、当年との比率が110%より高い場合は「上回る」、90～110%は「並み」、90%より低い場合は「下回る」としています。
- ☞ CPUEの動向は、当年を含む過去5年間での増減率が5%を超える場合は「増加」または「減少」とし、5%以内の場合は「横ばい」としています。

沖合底びき網漁業(2そうびき)

1 統当り漁獲量は平年並み、水揚金額は平年を上回る

浜田漁港を根拠地とする沖合底びき網漁業（操業統数3統）の令和7年漁期（令和7年8月16日～令和8年5月31日）の総漁獲量は1,776トン、総水揚金額は13億5,566万円でした。また、1統当りの漁獲量（以下、CPUE）は592トンで平年並み、水揚金額は4億5,189万円で平年を25%上回りました（過去10年平均：625トン、3億6,180万円）（図3）。

ムシガレイ、ソウハチとも平年を下回る

ムシガレイのCPUEは28トン（平年比68%）、ソウハチのCPUEは27トン（平年比76%）でそれぞれ平年を下回りました。ヤナギムシガレイ（地方名：ササガレイ）のCPUEは12トン（平年比94%）で平年並みでした。過去5年間のCPUEの動向は、3魚種とも「減少」傾向にあります（図4①）。

ケンサキイカは平年並み、ヤリイカは好調

ケンサキイカのCPUEは36トン（平年比96%）で平年並みの水揚げでした。一方、ヤリイカのCPUEは37トン（平年比349%）で平年を大きく上回る水揚げでした。ヤリイカは長らく低調な水揚げが続いていましたが、近年で漁獲が多かった令和2年漁期のCPUE（29トン）を上回り、およそ30年ぶりにCPUEが30トンを上回る好調な漁獲となりました。（図4②）。

アナゴ類は平年並み、アンコウ類は平年を上回る

アナゴ類のCPUEは46トン（平年比96%）で平年並み、アンコウ類のCPUEは47トン（平年比146%）で平年を上回りました。過去5年間のCPUEの動向は、アナゴ類は「減少」、アンコウ類は「増加」傾向にあります（図4③）。

アカムツ・キダイは平年並み、マフグは低調

アカムツのCPUEは50トン（平年比94%）で平年並みでした。過去5年間のCPUEの動向は「減少」傾向にあります。キダイのCPUEは82トン（平年103%）で平年並みでした。マフグのCPUEは16トン（平年比66%）で平年を下回り、平成30年漁期以降、低調な水揚げが続いています（図4④）。

この他、マダラのCPUEは27トン（平年比241%）、マダイのCPUEは37トン（平年比145%）と好調であった一方、マトウダイ（地方名：バトウ）のCPUEは18トン（平年比85%）、カワハギ類（主にウマヅラハギ）のCPUEは12トン（平年比38%）、ニギスのCPUEは2トン（平年比38%）、スルメイカのCPUEは6トン（平年比25%）でいずれも平年を下回る漁況でした。

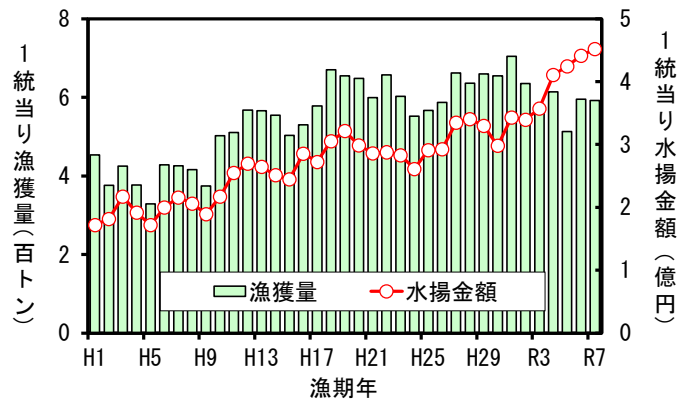


図3 浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業における1統当り漁獲量・水揚金額の経年変化

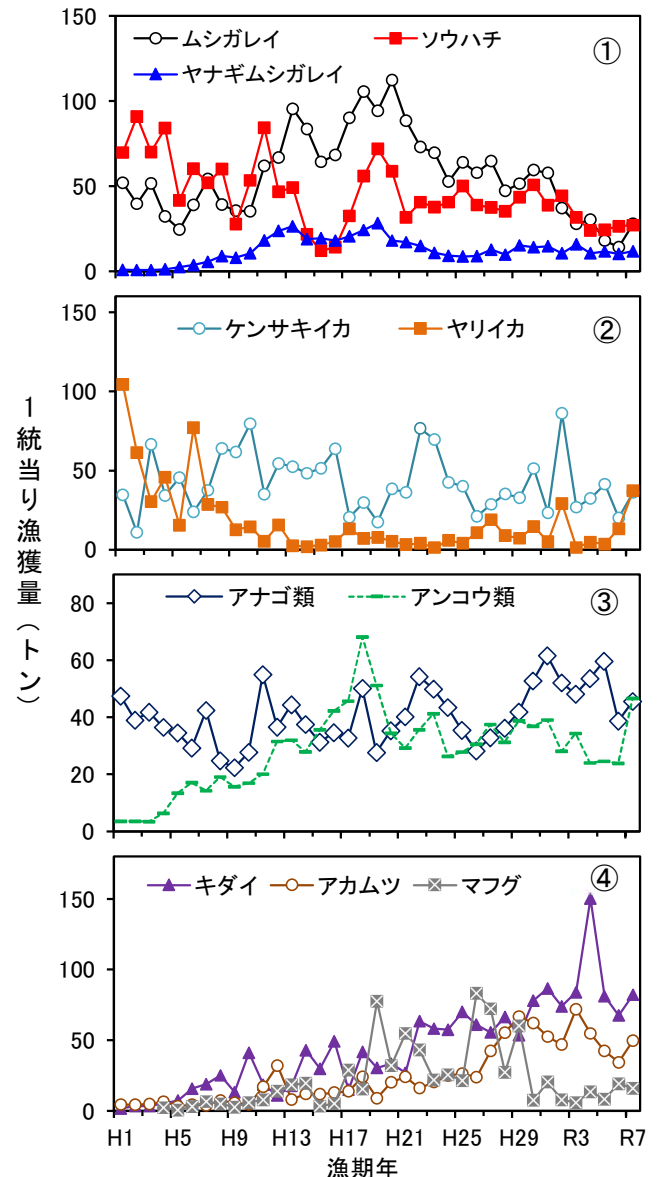


図4 沖合底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向